

切稜立方体積み木(マグネットつき)

この積み木を構成するひとつひとつの形は切稜立方体とよんでいます。切稜(せつりょう)という言葉は耳慣れないこととおもいますが、言い換えると〈面取り〉、お母さんが料理のさいにじゃがいもや大根のかどを取ったり、大工さんが柱のへりにカンナをかけたりすることです。

立方体のすべてのへりを面取りすると、三角形、四角形、六角形につなげることができるようになり、造形のバリエーションがおどろくほど広がります。

まず作っていただきたい形は右のようなボールです。四角形環が6か所、六角形環が8か所みえるものです。幾何学的には切頂8面体とよべれます。



作り方は、まず左のような四角形環を作りましょう。

注意すべき点は、上下左右の図の位置にマグネットと画鋸がくるとよにつなぐことです。

できたら、同じものをあと5組作ります。そして、最初の1組の四角形環のマグネットと画鋸の位置に四方の壁のように立てます。さいごにふたをすればできあがりです。

次に作っていただきたいのは赤白7個ずつからなる右のようなボールです。

この作り方を言葉で説明するのはむずかしいので、写真を見て挑戦してください。

このかたちは、K4結晶とよばれる夢の新素材で、現在東北大学を中心に合成研究がされています。積み木遊びからも科学の発展に貢献できる一例です。

ぜひ子供たちの自由な発想を広げてあげてください。



積み木インテリアギャラリー

Gallery of Wooden Polyhedra

758-0141 山口県萩市川上 5014

080-3875-1503

woodenpolyhedra@gmail.com

<http://woodenpolyhedra.web.fc2.com/>